

令和6年度

東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum Annual Report 2024



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

3

アート・コミュニケーション事業

人と作品、人と人、人と場所とをつなぎ、アートを媒介とした新たなコミュニケーションを育む活動を展開。美術館に集まる多種多様な人々とのコミュニケーションを大切にし、そこから創出される新しい価値観を社会に届けることで、アートを介したコミュニティを育んでいくことを目的としている。

とびらプロジェクト

Museum Start あいうえの

Creative Ageing ずっとび

障害のある方のための特別鑑賞会

とびラーによる建築ツアー

学校連携

展覧会関連プログラム

事業の発信・成果の発表



とびらプロジェクト

とびらプロジェクトとは、美術館を拠点にアートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトである。当館と東京藝術大学(以下、藝大)が連携し2012(平成24)年度より始動。2024(令和6)年度で13年目を迎えた。広く一般から集まったアート・コミュニケータ(愛称:とびラー)は、都美の学芸員、藝大の教員や専門家と対話を重ねながら、美術館の文化資源を活かした活動を展開している。本年度は11・12期とびラーに新たに13期とびラーが加わり、オンラインとリアル両方の場で活動した。

とびラーの活動はボランティアではあるが、美術館のサポーターではない。学びと実践をくり返し、能動的なプレイヤーとしてプロジェクトを推進している。とびラーの任期は3年間であり、その間にアートを介して誰もがフラットに参加できる対話の場をデザインし、さまざまな価値観を持つ多様な人々を結びつける活動を生み出している。

1期から10期までの任期満了したとびラーは合計369人となり、本年度も社会のさまざまな場所でアート・コミュニケータとしての活躍が見られた。

以下、実施プログラムの基本データは事業実績一覧(pp.60-63)を参照。

ウェブサイト <https://tobira-project.info>(ページビュー／537,569)

とびラー募集の流れと主な年間スケジュール

2023(令和5)年度

- 12月 13期とびラー募集広報開始
- 1月 13期とびラー応募受付開始
「とびらプロジェクト」フォーラム
13期とびラー応募締切
- 3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)
→13期とびラー決定通知

2024(令和6)年度

- 4月 基礎講座(～6月):隔週土曜日 全6回
- 7月 実践講座(～2月):鑑賞実践講座 全8回、アクセス実践講座 全7回、建築実践講座 全7回
- 7月 「Museum Start あいうえの」当年度プログラム開始
- 8月 「Creative Ageing ずっとび」当年度プログラム開始
- 12月 14期とびラー募集広報開始
- 1月 14期とびラー応募受付開始
「とびらプロジェクト」フォーラム
14期とびラー応募締切
- 3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)
→14期とびラー決定通知
開扉会(かいびかい:11期とびラーの任期満了式)

年間を通じて、とびラーの自主的な学びあいの場(とびラボ)が342回開催された。

13期とびラーの応募倍率と本年度のとびラー人数

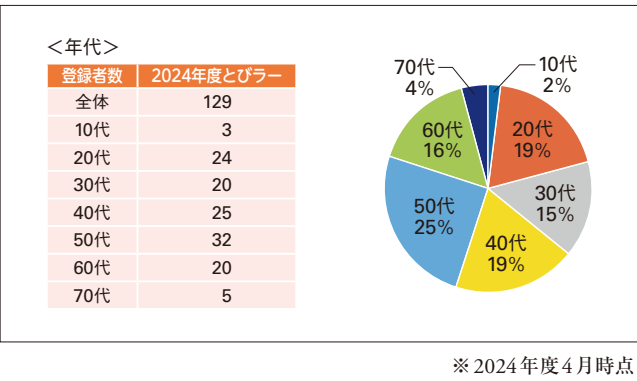
募集に対し362人から応募があり、書類審査、面接を経て、51人を13期とびラーに決定。約7.1倍の倍率であった。この51人と、2023(令和5)年度から更新した11・12期とびラー78人をあわせた計129人で2024(令和6)年度のとびらプロジェクトが始動した。

都美×藝大とびらプロジェクト運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当し、当館のプロジェクトルームを拠点に活動した。藝大担当者は小牟田悠介(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域特任助教、とびらプロジェクト・マネージャ)、越川さくら(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)、西見涼香(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)、代表教員として伊藤達矢(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 長、教授)。都美担当者は熊谷香寿美(東京都美術館学芸員)、峰岸優香(東京都美術館学芸員)。

とびラーの基本属性

11～13期とびラーの基本属性は次の図のとおりである。年齢や仕事、経験、活動できる曜日などが偏らないよう多角的視点から総合的に配慮した上で選考されている。



基礎講座・実践講座をはじめとする学びと実践の場

とびラーは、当館のミッションや藝大からのメッセージをもとに、とびらプロジェクトの目指す方向性を共有し、1年目とびラー全員必修の「基礎講座」でとびラーとしての基本的なコミュニケーションのあり方を学ぶ。その後、よ

り実践的な活動場面を想定した選択制の「実践講座」で活動への理解を深める。過年度はコロナ禍のためにオンライン開催となっていた講座も、本年度はリアルで実施し、美術館の現場で学ぶ機会を増やしていった。



基礎講座(第4回)会議が変われば社会が変わる

・基礎講座(4～6月の隔週土曜日／全6回／各回約4時間)
アートを介してコミュニティを作るための基礎を学ぶ。対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは?美術館での鑑賞体験とは?といった問いをテーマに、とびラーの活動を支える基礎的な考え方をワークショップ形式で学ぶ。コミュニケーションの最も重要な要素として、高い発信力だけではなく相手の話を状況や発言の文脈に応じてその本意を想像し「きく」受信力を身につけることを目的としている。

第1回 オリエンテーション(全とびラー対象)
講師／小牟田、熊谷
プロジェクト概要や情報共有ツールについて紹介し、これから活動していく上で必要となるとびラー同士の共通認識をコミュニケーションの中でつくる。

第2回 「きく力」を身につける(13期とびラー対象)
講師／西村佳哲(プランニング・ディレクター／リビングワールド代表)
コミュニケーションの基本となる、話をしている相手の全体性に関心を向けて「きく」こと、とびらプロジェクトで大切な「きく力」について、講義と体験を通じて学ぶ。

第3回 作品を鑑賞するとは(13期とびラー対象)
講師／熊谷
作品が存在することによって起こる体験にどのような意義があるのか、作品を鑑賞することの意味について理解を深める。

第4回 会議が変われば社会が変わる(13期とびラー対象)
講師／青木将幸(青木将幸ファシリテーター事務所代表)

とびラーの自主的な活動において根幹をなす「ミーティング」の場を、参加する一人ひとりが主体的に関わる場とするための具体的な手法を学ぶ。
第5回 ミュージアムとウェルビーイング(全とびラー対象)
講師／中原淳行(東京都美術館 学芸員 学芸担当課長)、小牟田、熊谷

東京都美術館のミッションとその背景について学芸員から話を聞く。また、これまでとびらプロジェクトやMuseum Start あいうえの、Creative Ageing ずっとびで実践してきたプログラムを題材に、人々との関わりで多様なウェルビーイングを実現する社会包摂の拠点となるミュージアムのあり方について考える。

第6回 この指とまれ／そこにいる人が全て式／解散設定(13期とびラー対象)
講師／西村佳哲
小さなチームのつくり方や、そこに集まった人たち全員の力を活かした活動のつくり方、とびラーが自主的に活動していくための手法を学ぶ。また、活動のはじめ方だけではなく、終わり方のデザインについても理解を深める。

・実践講座(7月以降各講座ごとに年間を通じて実施)
実践的な場面を想定して設けられた3種類の講座。各講座は外部の専門家や学芸員が担当。実践の現場で気付いた疑問なども振り返りながら、アート・コミュニケータとしての学びをより深める。

鑑賞実践講座(自分自身の眼で自分の感じ方を大切にしながら、作品をよく「みる」方法を身につける。作品を媒介にして複数の人がコミュニケーションをするための場づくりができるようになる。視覚的イメージを媒介にして、共同のかつくりティカルに複数の人が思考する場をデザインできるようになることを目的とする。)全8回
講師／三ツ木紀英(特定非営利活動法人芸術資源開発機構 代表理事)、熊谷、越川、峰岸

アクセス実践講座(具体的な社会課題に関わる状況・活動を知ることにより、美術館にアクセスすることが難しい人が、来館し、利用するために必要な支援を考える力を身

につける。)全7回

講師／又村あおい(全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事 兼 事務局長)、小野広祐(学校法人 明晴学園 教頭)、村田陽次(東京都 生活文化スポーツ局都民安全推進部 都民安全課 課長代理)、山藤弘子(日本語教師、地域日本語教育コーディネーター、多文化共生コーディネーター)、矢嶋桃子(ライター、「谷中ベジママ安心ネット」主宰)、千ヶ崎賀子(社会福祉法人台東区社会福祉協議会 コーディネーター)、森田明(学校法人 明晴学園 教頭、NHK Eテレ『みんなの手話』講師、NHK Eテレ「手話で楽しむみんなのテレビ」手話演者)、南雲麻衣(ダンサー、俳優、アーティスト)、小牟田、越川、石丸郁乃(東京藝術大学 芸術未来研究場 ケア、コミュニケーション領域 特任助手 Museum Start あいうえのプログラムオフィサー)、藤岡勇人(東京都美術館学芸員)



アクセス実践講座(第2回)ろう文化を知ろう

建築実践講座(東京都美術館の建築の歴史や背景を理解し、自分の感覚を手掛かりに建築を味わう力を身につけ、美術館というパブリックな建築を介して人々をつなぐ場をデザインすることを目的とする。)全8回

講師／倉方俊輔(大阪市立大学大学院工学研究科 教授)、早川典子(江戸東京たてもの園 学芸員)、君塚和香(東京藝術大学 キャンパスグランドデザイン推進室 特任助教)、山田あすか(東京電機大学 未来科学部 建築学科 教授)、西見、峰岸、河野佑美(東京都美術館学芸員)

上記講座に加えて、とびラー全員が集合する「とびらステーション」を年に1回開催し、とびらプロジェクトの全体像や今後の方向性を確認しあう機会としている。本年度は、東京都美術館を会場に実施、79名が参加し互いに交流する機会とした。

また、特別展・企画展・上野アーティストプロジェクト展・コレクション展については、展覧会担当学芸員による事前勉強会が設けられている。加えて、専門家とともに行う野外彫刻洗浄への参加も昨年に続き呼びかけた。

オープン・レクチャー

オープン・レクチャーとは、とびラーに加えて一般の方々を対象に毎年行われている公開講座である。ゲスト講師を招き、とびらプロジェクトの活動を進める中で見いだされた問題意識や目指す社会の姿について知見を深めることを目的とし、アートを介したコミュニティの価値に関して広く一般に発信する機会としている。

2024(令和6)年度は、アクセス実践講座の第6回を一般公開する形で開催した。本年は「Museum Start あいうえの」で2年にわたって取り組んできた「みるラボ」の活動紹介を軸に、ろう者や難聴者など様々な「きこえ」の状況にある人々と、聴者(聞こえる人)が、ともに美術館で「伝える、共有する」活動に取り組む意義について講演を行った。登壇者にはろう者として手話言語を用いた教育や表現に取り組む方々をお迎えし、ろう文化に関するレクチャーを行うほか、ろう者・難聴者を含むアート・コミュニケーターの活動についても紹介した。登壇者は森田 明(学校法人 明晴学園 教頭、NHK Eテレ「みんなの手話」講師、NHK Eテレ「手話で楽しむみんなのテレビ」手話演者)、南雲麻衣(ダンサー、俳優、アーティスト)、石丸、熊谷、小牟田。



オープン・レクチャー Vol.15 のチラシ

「とびらプロジェクト」フォーラム

とびらプロジェクトの活動とその意義を広く周知することを目的として、毎年とびらプロジェクトフォーラムを開催している。次年度のとびラー募集のための説明会という趣旨も兼ねている。

本年度は「交差するミュージアム 関わりからクリエイティビティがうまれる」をテーマに実施した。2024(令和6)年4月から施行された、障害や様々な特性がある方への「合理

的配慮」の義務化を背景とし、多様な人々が互いの「違い」に関心を寄せ、創造的に関わりあうコミュニティのあり方について話題を広げる機会とした。登壇者は日比野克彦(アーティスト、東京藝術大学学長)、中原淳行、熊谷、小牟田、とびラー7名、任期満了後のアート・コミュニケーター1名。

第1部は東京都美術館の講堂を会場に行い、YouTubeで後日配信も行った。小牟田がとびらプロジェクトの概要について紹介した後、「関わりからうまれるクリエイティビティとは」と題したトークセッションを行い、小牟田と熊谷が聞き手となって、とびラー7名が今年取り組んだ3つのプログラムを紹介した。まず、建築の見どころを参加者のペースでまわれる「都美のいいとこスタンプラリー」では、多様なとびラーたちで企画を組み立てるプロセスや、障害のある子どもや家族が当日楽しんだ様子を紹介した。次に、難聴者のとびラーが「とびラーによる建築ツアー」でガイドをつとめたエピソードとして、ほかのとびラーと協力し、UDトークを導入して実施した例を紹介した。3つ目に、ろう者のとびラーと全盲のとびラーがコミュニケーションをとりながら活動する「ともブラコラボラボ」では、意思疎通のための工夫や、周りのとびラーの気づきから生まれた様々な試行錯誤について紹介した。続いて、任期満了後のアート・コミュニケーターが主宰する「Flatart(フラッター)」の紹介では、学校や社会になじめない若者とアートをつなぐ活動を継続する事例が語られた。

後半のディスカッションでは、「交差するミュージアム」をテーマに、日比野、中原、小牟田、熊谷が登壇。多様な人々が協働する意義についてふりかえり、アート・コミュニケーターの働きが美術館や社会にもたらす影響について議論を深めた。

第2部は「とびラー オープンセッション」をアートスタディールーム、スタジオ、講堂で開催。とびラーの活動拠点であるアートスタディールームを公開し、普段の活動について紹介しながら、来場者からの質問にも答えた。



とびらプロジェクトフォーラム第2部「とびラー オープンセッション」

14期とびラーの決定

募集に対し385人から応募があり書類審査、面接を経て、2025年3月に58人を14期とびラーに決定した。



14期とびラー募集チラシ

とびラボ

「とびラボ」はとびラー同士が自発的に開催する学び合いの場であり、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場所である。「とびラボ」は、ある1人のとびラーのアイデアに共感した他のとびラーが集まり3人以上のチームを作るところから始まる。

集まったメンバーのできることを組み合わせ、興味・関心・得意分野を大切に、お互いに「ききあい」、学芸員や大学教員とも相談しながらアイデアを実現させていく。予めデザインしておいた終わり方に従ってチームが解散した後は、また新しいメンバーが集まり新しい「とびラボ」が生み出される。

とびらプロジェクトでは、このステップを「この指とまれ式」、「そこにいる人が全て式」、「解散!また結成」と呼んでいる。この活動を経て、オリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。同時に「とびラボ」はさまざまなバックグラウンドを持つとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が美術館に新しい価値を注ぎ込んでいる。本年度も、Zoomでのミーティングとリアルの場でのミーティングを併用して行った。年間開催数 342回、のべ参加者数 2,796人。

「とびラボ」から生まれた活動

◎展覧会に関連した一般来館者対象の活動：

企画展

・消しゴムはんこ展示@障害のある方のための特別鑑賞会(デ・キリコ展)

・ひろがる iPad@障害のある方のための特別鑑賞会(デ・キリコ展)

・消しゴムはんこ展示@障害のある方のための特別鑑賞会(田中一村展 奄美の光 魂の絵画)

・さらにひろがる iPad@障害のある方のための特別鑑賞会(田中一村展 奄美の光 魂の絵画)

・おしゃべり鑑賞会(上野アーティストプロジェクト2024 ノスタルジア—記憶のなかの景色)

◎当館の建築及び野外彫刻をテーマとする一般来館者対象の活動：

・トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー

・五感で楽しむ 朝の都美さんぽ

・野外彫刻を楽しむ

・都美のいいとこスタンプラリー

◎とびラー対象の活動：

こどもってなんだろう？ラボ、VTS練習会、とびdeラヂオぶ〜☆「とびラーによるずっとアートと生きていくラヂオ」、おじさんのことも考えてみたいラボ、とびラ体操を作りたい！、やさしい日本語を使ってみよう、地域福祉ラボ、きこえてなんだろう、上野公園探検隊、一村展でバードウォッチング、開扉冊子2025編集部等
※詳細はとびらプロジェクトウェブサイトのとびラボページを参照のこと。https://tobira-project.info/tobilab



おしゃべり鑑賞会



都美のいいとこスタンプラリー



とびdeラヂオぶ〜☆「とびラーによるずっとアートと生きていくラヂオ」

情報共有の仕組み

基礎講座や実践講座に関する情報伝達、とびラボやそこから生まれた活動の周知など、100人を超えるとびラーの情報共有を支える仕組みとして、プロジェクトを開始した2012(平成24)年度よりメーリングリストと用途に合わせたウェブ上の2つの掲示板を整備している。ただし、とびらプロジェクトの活動は直接会って話をするを前提としているため、これらの仕組みは補助ツールとして運用している。また、情報共有ツールであると同時に次世代とびラーへのアーカイブとしての機能も果たしている。ミーティング方法の一つとして、コロナ禍よりオンライン会議システムであるZoomミーティングも導入している。

情報保障

1) 聴覚障害を持つアート・コミュニケータへの情報保障として、講座等に手話通訳、遠隔日本語字幕を導入するとともに、日常的なコミュニケーション支援として筆談とUDトークを活用した。

2) 全盲のアート・コミュニケータへの情報保障として、講座等で鑑賞する作品の触察ツールを制作したり、メー

ルや掲示板の情報を音声読み上げ等の方法で理解しやすくするためのサポート等を行った。



触図をさわって鑑賞する様子

これからゼミと開扉会

「これからゼミ」とは、とびらプロジェクトでの任期満了後の活動を考え、その準備を進めるためのゼミである。3年目のとびラーを1名以上含むチームを結成し活動を進める。内容によっては、スタッフとの情報共有の上、館外で活動を行うことも可能である。

本年度のミーティング開催数10回、のべ参加者数138人。

「これからゼミ」から生まれた活動は下記の通りである。

- ・アートとの出会い方・出会いの場を考える
- ・みんなの「やりたい」を実現するプラットフォームづくり
- ・VTSゼミ(仮)

上記のような活動を経て、2025(令和7)年3月には3年の任期を満了したとびラーのための「開扉会(かいびかい)」が開催された。任期満了した11期とびラー 37人。



「開扉会」での集合写真

アート・コミュニケータの活躍と広がり

2023(令和5)年度より始まった「アート・コミュニケーション事業を体験する 2024 ずっとアートと生きていく—上田薫と上田葉子の生き方に学ぶ、クリエイティブ・エイジング」(詳細はp.59を参照)では、会場ファシリテータとしてとびラーや任期満了したアート・コミュニケータが活躍し、展覧会の作品やテーマ、美術館や地域医療・福祉セクターと連携した取り組みについて来場者の理解を深める役割を担った。

任期満了後のアート・コミュニケータは、当館内外のさまざまな場で活躍の場を実現している。当館では、任期満了したアート・コミュニケータが運営する任意団体「アート・コミュニケータ東京」に「障害のある方のための特別鑑賞会」の運営協力を依頼している。

他には、東京都美術館を設計した前川國男の建築である神奈川県立音楽堂を紹介するガイドツアーを行う団体「Bridge」、同じく前川國男建築の埼玉会館を紹介するガイドツアーを行う団体「前川國男を知ろう！彩の国探検隊」、赤ちゃんを連れてミュージアムに行く保護者やファミリーを応援するプログラムを行う「ベビーといっしょにミュージアム」、府中市美術館での小学校来館をコーディネートする団体「あーちゅびー」、孤立しやすい若者を支援する団体と連携し藝大生との鑑賞プログラムを行う「Flatart(フラッター)」など、今後もさまざまな活動の展開に期待が寄せられる。

「アート・コミュニケータ東京」や「ベビーといっしょにミュージアム」などのチームが、東京都庭園美術館からの依頼でアート・コミュニケーション・プログラムが定着するなど、社会的ニーズの高まりもうかがえる。

Museum Start あいうえの

「Museum Start あいうえの」(以下、「あいうえの」)とは、上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子供たちのミュージアム・デビューを応援するラーニング・デザイン・プロジェクトである。小学校1年生～高校3年生及び、その年齢の全ての子供たちを対象とし、複数の文化施設が持つ豊富な文化資源の観察・鑑賞を通した統合的な学びを推進。大人と子供が共に学び合う主体性を重視したアクティブ・ラーニング・プログラムを実施することで、生涯を通じて継続的にミュージアムを活用することができる「ミュージアム・リテラシー」を育むことをねらいとしている。あわせて、参加した子供や保護者、教員、とびラー等で構成される文化財を介した人と人のつながり「ミュージアム・コミュニティ」の形成を目指している。

複数の文化施設の活用を促すツール「ミュージアム・スタート・バック」とウェブサイトを軸に、ミュージアム・大学・市民が協働して子供たちの学びに関わり、プロジェクトを推進させている。本年度の子供の参加者は1,330人。2013(平成25)年の事業開始から累計21,020人の子供がミュージアム・デビューを果たしている。実施プログラムは事業実績一覧(pp.60-63)を参照。
ウェブサイト <https://museum-start.jp>
(ページビュー／250,589)
インスタグラム @museumstartaiueno 閲覧数78,566回

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、東京藝術大学
共催：上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館(五十音順)

とびらプロジェクトとの連動

「あいうえの」で重要な役割を果たすのが「きく力」を意識して子供たちと共に活動しているとびラー(p.44参照)である。自分に関心を持って耳を傾けてくれる人の存在が子供たちの自己肯定感を育むことにつながる。
とびラーたちはプログラムの中で子供たちの伴走役として活動する。親でも先生でもない多様な大人と出会い、豊富な文化資源を共に鑑賞し、大人と子供がフラットに学びあうことで、子供たちのミュージアム体験がより充実したものになることを目指している。他方、とびラーにとっては、「あいうえの」でプログラムの場づくりに参画することが、とびらプロジェクトでの各講座の内容を具体的に理解し、実践する学びの場となっている。

Museum Start あいうえの運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当した。藝大担当者は、小牟田悠介(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助教、「あいうえの」プロジェクト・マネージャ)、石丸郁乃(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助手、「あいうえの」プログラム・オフィサー)、手代木理沙(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域特任助手、「あいうえの」プログラム・オフィサー)。当館のプロジェクトルームを拠点に活動した。都美担当者は熊谷香寿美、河野佑美。都美から専門家委託した新留璃子。

「ミュージアム・スタート・バック」の特徴

「ミュージアム・スタート・バック」とは、子供たちがミュージアムを楽しく活用するためのスターター・キットである。「あいうえの」のプログラムに初めて参加した子供たち全員にプレゼントしている。

連携各館を紹介するガイドブックである「ビビハドトカダブック」とミュージアムでの体験の記録を書き込める「冒険ノート」の2冊がバインダーにまとめられている。バインダーには「あいうえの」の秘密の呪文(館種を表す言葉の頭文字をつないだ「ビビハドトカダブ」)がホログラムをあしらってデザインされている。

子供たちの意欲をより高めるため、連携各館にバックを持って出かけるとオリジナルバッジを集められる仕組みとなっている。保護者・教員には「あいうえの」を紹介した小冊子「ミュージアム・スタート・バック活用ガイドブック」を配布。



ミュージアム・スタート・バック(ver.11、2024年度版)

ウェブサイトの機能

「あいうえの」ウェブサイトでは、子供たちや保護者が上野公園への来訪時に参考にできるよう連携9館のプログラムや展覧会情報等を一望できる「ミュージアム・カレンダー」を設けている。あわせて、参加者による「冒険ノート」の投稿・閲覧ページ、連携館で働く人々のミュージアム体験に関するインタビュー記事等を掲載した「Ueno Park & Museums」、実施プログラムを報告する「活動ブログ」を掲載。



ウェブサイトトップページ

入口としてのアクティブ・ラーニング・プログラム

「あいうえの」ではあらゆる子供たちが参加できるよう、3つの入口を用意している。広く公平に子供たちに参加してもらうための「学校プログラム」、ファミリーにミュージアムでの学びの機会を提供する「ファミリー & ティーンズ・プログラム」、そして、多様な文化的背景を持つ子供たちや社会的支援を必要とする子供たちを対象とする「ダイバーシティ・プログラム」の3つである。いずれも、大人と子供の学び合いを重視したアクティブ・ラーニングを行っている。

本年度は、美術館の建物や野外彫刻を活用したプログラムのほか、連携館を会場としたプログラムを再開した。実施したプログラムは以下のとおり。

(1) 学校プログラム

美術館で作品と出会い対話することで、子供たちの見方・感じ方を広げるプログラム。学習指導要領に対応し、言語活動を通じて子供たちの「主体性」「生きる力」を育む。図工・美術に限らず総合学習や国語など授業のねらいにあわせて実施。都美の学芸員や藝大教員が学校教員の相談に応じ、美術館を活用した授業づくりをコーディネートしている。当日だけでなく事前授業から事後授業まで教員をサ

ポート。事前授業に活用できる作品のアートカード等が入った「鑑賞ボックス」も貸し出している。



スペシャル・マンデー「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」、東京都美術館

・スペシャル・マンデー

特別展・企画展の休室日(月曜日)にゆったりとした展示室で鑑賞授業を行うプログラム。とびラーが子供たちと作品鑑賞を共にし、サポートする。学校から美術館までの往復バスを無料で用意し、美術館を活用しやすい環境を整えている。

全4日開催

参加8校2園、参加者数：547人(園児・児童・生徒数)

対象：都内幼保・小・中・高等・特別支援学校(幼稚園保育園は年長クラスから受け入れ、特別支援学級も受け入れ)

・うえのウェルカム

野外彫刻や開室中の展示室で行う学校対象プログラム。授業のねらいや目的にあわせた幅広い活動を行う。

全8日開催

参加8校、参加者数：428人(児童・生徒数)

対象：小、中、高等学校、特別支援学校・学級
(申込状況により、都外の学校も受け入れ)

(2) ファミリー&ティーンズ・プログラム

ミュージアムの楽しさや上野公園の魅力を体験できる、冒険と発見のプログラム。鑑賞・観察を通して子供と大人がともに学びあうことを目指している。どのプログラムにおいてもとびラーが子供たちの活動に伴走している。本年度は下記の3つのプログラムを実施した。

・ミュージアムGO

子供と大人がミュージアムの楽しさや楽しみ方のコツを、それぞれに知ることができるプログラム。こどもたちは、みんなで高精細複製図屏風(伝・尾形光琳筆《群鶴図屏風》)をとびラーと対話しながら鑑賞した。保護者は、子供とミュージアムを楽しむコツに関するガイダンスを聞き、スライドやアートカードを使って、上野公園のミュージアムの作品を小さなグループで、対話しながら鑑賞をした。実施日：7月6日(土)、24日(水)、12月14日(土) 2025年2月22日(土) 全4日、8回実施／参加者数：255人(子供)



屏風の鑑賞 高精細複製図屏風《群鶴図屏風》

・あいうえのmeet

上野公園に集まる様々なミュージアムの得意分野を活用した。それぞれのミュージアムを舞台に、アーティストや学芸員・専門家・研究者と出会い、分野横断的に作品や資料を探求するプログラム。

meet①大地とつくる 東京都美術館×東京藝術大学

実施日：8月22日(木)

参加者数：11人(子供)

meet②いろいろいろ 東京都美術館×国立科学博物館

実施日：12月7日(土)

参加者数：13人(子供)

meet③ミロとみる 東京都美術館×国立西洋美術館

実施日：2025年3月27日(木)

参加者数：16人(子供)



あいうえのmeet② 国立科学博物館 地球館 撮影：中島佑輔

・みるラボ：つたえ方を考える

「きこえ」の違いを切り口に、異なる文化と出会い、ともに美術館体験をするティーンズ世代対象のスペシャル・プログラム。2023(令和5)年度の実施に引き続き、2回目の開催。ろう者・難聴者と聴者がグループになり、「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展の作品を鑑賞し、3人で選んだ1つの作品を表現する映像を協働して制作した。ろう者・難聴者のとびラーも一緒に活動した。

実施日：8月16日(金)、17日(土)

※台風の影響のため17日のみの実施となった

参加者数：9人(ティーンズ)



作品鑑賞の様子「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展、東京都美術館 撮影：中島古英

(3)ダイバーシティ・プログラム

多様な文化的背景を持つ人々が、文化や言語を越えて違いや共通点を知り、相互理解を深めるプログラム。様々な社会的状況にある子供たちを対象に、2016(平成28)年度から実施している。児童養護施設、経済的困難を抱えた子

供をサポートするNPO、外国にルーツを持つ子供をサポートするNPOなど、関連する団体と連携し、文化や言語の違いを超えて、子供や大人が出会い、対話することを目指している。

・美術館でやさしい日本語プログラム「絵の音を楽しもう！」

中国、ベトナム、インド、パキスタン、日本にルーツを持つ子供とその保護者が参加し、やさしい日本語を使ったプログラムを開催した。「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」を鑑賞し、グループでお気に入りの作品の一つを選び、そこから聞こえてくる音を想像し、いくつかの素材で音をつくった。また、子供同士だけでなく保護者同士も交流できるよう、保護者を対象にグループに分かれてとびラーと館内散策するツアーも同時進行で実施した。最後に子供たちの作った音を皆で聞きあった。

実施日：11月10日(日)、1回開催

参加者数：子供19人、保護者22人、とびラー 25人



「絵の音を楽しもう！」ASRでの活動風景

・ミュージアム・トリップ

NPO法人台東区の子育てを支え合うネットワーク たいとこネット・認定NPO法人キッズドアと連携し、各団体が支援する子供たちを対象に美術館を楽しむプログラムを開催。来館時期にあわせ、「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展や東京藝術大学卒業・修了作品展をとびラーと一緒に鑑賞した。東京藝術大学卒業・修了作品展では藝大生から作品制作にまつわる話を聞く機会も設けた。

実施日：8月9日(金)、2025年2月1日(土)、2回開催

参加者数：子供25人、保護者5人、引率者7人、とびラー 26人



「第73回 東京藝術大学 卒業・修了作品展」、東京藝術大学

あいうえのコミュニティ

ミュージアムを活用した継続的な学びを支援するミュージアムを拠点にしたつながり「あいうえのコミュニティ」を支える仕組みとして、プログラム参加者には専用ニュースレター(あいうえの通信)を発行。ミュージアムや文化財を介したコミュニティの形成へのステップを継続的に創出している。本年度は、ニュースレターを9回発行した。

また、本事業においてとびラーは重要なパートナーであり、とびラーがコミュニティの一員として主体的に関わることができるよう、全てのプログラムの前後には、事前の準備会と事後の振り返りを実施し、実践的な学びを深めている。また、全てのプログラムの後には振り返りを実施した。

準備会実施回数：24回

参加者数：とびラー 438人

・アンバサダー・プログラム

「アンバサダー・プログラム」とは、「あいうえのコミュニティ」を広げる取り組みの1つであり、とびラーが「あいうえの」を発信するプログラムである。対象はとびラー自身が属する身近なコミュニティの子供やその保護者で、とびラーが「あいうえの」の趣旨やコンセプトを紹介し、参加者がとびラーと一緒にミュージアム体験をする内容としている。とびラーの「あいうえの」に対するより深い理解を促すことも目指している。

実施回数：4回

参加者数：子供6人、保護者・引率者4人、とびラー 4人

Creative Ageing ずっとび

「Creative Ageing ずっとび」（以下ずっとび）は超高齢社会に対応して、2021(令和3)年度よりシニア世代を対象に始めた事業である。人や作品との出会いを通して、シニアがより主体的で創造的に楽しめる参加型のプログラムを実施している。事業名の「Creative Ageing(クリエイティブ・エイジング)」には「創造的に年を重ねる」という意味があり、「ずっとび」には、歳を重ねても「ずっと」通いたくなる美術館「とび(当館の愛称)」を目指す思いが込められている。

アート・コミュニケーション事業が取り組む、美術館の文化資源を介した多様な人々の社会参画とコミュニケーションの場づくりは、人々の健康やウェルビーイングにも寄与する役割も担ってきた。ずっとびでは、この役割をシニアに向けてより意識的に展開していくことで、美術館が高齢者の健康を作る場となり、さらには高齢化に伴う社会的孤立や孤独などのさまざまな社会問題にも向き合うことを念頭に入れて活動している。実務は都美と藝大で組織された運営チームが担当した。藝大担当者は小牟田悠介、金濱陽子(『共生社会』をつくるアートコミュニケーション共創拠点推進機構特任助手)。都美担当者は熊谷香寿美、藤岡勇人。
ウェブサイト <https://www.zuttobi.com/>
(ページビュー／ 23,336)

多職種連携について

加齢に伴う認知機能の衰えや疾患などにより美術館へのアクセスに障壁を感じているシニアとつながり、配慮が必要な部分にも対応しながら受け入れていくには、多職種連携が鍵になる。ずっとびでは、日頃から大学、医療機関、地域福祉との連携を図り、シニアの健康に資する美術館の機能をより効果的に発揮することを目指して活動している。

当館が参画している、東京藝術大学を拠点とした産学官民の共創プロジェクト「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」（以下、アート共創拠点）では、芸術、福祉、テクノロジーなど様々な専門性を有する参画機関と協働し、シニアの社会参加につながる新しい文化的プログラムの開発や情報共有及び共同研究の機会をつくっている。また、当館が立地する台東区の医療機関、地域包括支援センター、社会福祉協議会などとも連携し、主に地域に暮らす認知症が気になる方とその家族を対象としたプログラムを共同で企画、実施、振り返りまでを行っている。

研究開発

(1)とびラーを対象に、2023(令和5)年度リサーチを行った台北市立聯合病院の医師リュウ・ジェンリャン氏をゲス

ト講師に招き、台湾における「博物館処方箋」を題材に「領域を超えた連携による認知症の人にやさしい環境づくり」というテーマのレクチャーを実施した。

実施日：11月4日(月・祝)、参加者数：62名(視察者1名)



レクチャーの様子

(2)パートナープログラム

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京では、国内文化施設、NPO、研究機関や文化事業に関わる多様な担い手と連携しながら、文化施設や文化事業のアクセシビリティ向上に関わる調査、検証、モデル開発を「パートナープログラム」と名付け今年度から取組みを始めた。当館はその一つ「認知症フレンドリーなアクセシビリティの検証及びモデル開発」の企画運営を担っている。本年度は、モデル開発に向けて、永寿総合病院と上野公園の文化施設(恩賜上野動物園、国立西洋美術館、したまちミュージアム、東京国立博物館)とのネットワークづくりを開始した。なお、初期の認知障害(MC I 相当)の方を対象としたプログラムを当館及び上野動物園にて実施した。



鑑賞プログラムの様子

「大地に耳をすます 気配と手ざわり」 東京都美術館 撮影：中島佑輔

認知症の方とそご家族を対象にしたプログラム

高齢化に伴い誰もが当事者になり得ると言われる認知症がある人や認知症が気になる人、またその家族を対象に、美術館での作品鑑賞と対話ができるプログラムを開催した。

(1) オレンジカフェ×ずっとび鑑賞会

昨年度に引き続き、永寿総合病院認知症疾患医療センターとたいとう・まつがや地域包括支援センターが開催している「オレンジカフェ(認知症カフェ)」と連動したプログラムを実施した。プログラムに合わせて大学美術館の収蔵品の中から5作品を選び、大学美術館の展示室に仮設の展示空間をデザインした。参加者は5～6人のグループになり、とびラーとの鑑賞を楽しんだ。

実施日：10月8日(火)、参加者数：9組15名



「オレンジカフェ×ずっとび鑑賞会」のパナー



「オレンジカフェ×ずっとび鑑賞会」の様子

飯島正義《晩秋》、絹本着色 1930年 東京藝術大学蔵

(2)美術館で絵を楽しもう！「ずっとび鑑賞会」

台東区立台東病院とあさくさ・みのわ地域包括支援センターと連携し、上記の東京藝術大学大学美術館の展示室を活用した鑑賞会を実施した。台東病院の関連施設である「老人保健施設千東」にリハビリのために通所している方な

ど、台東区の65歳以上の方とそご家族が参加した。美術館へのアクセスを高めるために送迎車を手配し参加者の一部が利用した。参加者はグループにわかれ、身近なモチーフやこどもが描かれた作品を前に、想像力を働かせながらとびラーとの鑑賞を楽しんだ。

実施日：10月9日(水)、参加者数：11組14名



「ずっとび鑑賞会」送迎の様子 撮影：中島佑輔

アクティブシニアを対象にしたプログラム

「動く、遺影！イエイ！イエーイ！」

講師にダンスカンパニー・んまつーボスを迎え、アート・コミュニケータ(とびラー)と一緒に美術館で作品を鑑賞し、人生をふりかえりながら、からだを動かすプログラムを実施した。

「アート・コミュニケーション事業を体験する 2024 ずっとアートと生きていく―上田薫と上田葉子の生き方に学ぶ、クリエイティブ・エイジング」の展示作品を題材に、参加者ひとりひとりの身体表現を「動く遺影」として記録した。

実施日：8月7日(水)、参加者数：11組14名

障害のある方のための 特別鑑賞会

障害のある方がより安心してゆっくり鑑賞できるように、特別展の休室日に事前申込制で「障害のある方のための特別鑑賞会」を開催している。

本年度は「デ・キリコ展」「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」にて各1回ずつ実施、合計1,262人の参加者があった。展示室での混雑を避ける目的で、受付を前年度と同じように1時間ごとの時間指定制で行った。とびらプロジェクトと連動し、当日の運営には総計63人のとびラーが参加した。任期満了したアート・コミュニケータから構成される任意団体「アート・コミュニケータ東京」にも運営協力を依頼し、事前準備を経て総計127人の「アート・コミュニケータ東京」会員が参加した。受付には手話通訳が常時待機し、聴覚障害がある方の通訳を行った。

参加者のサポートを行うアート・コミュニケータについて紹介するスライドを会場入り口に設置し、アート・コミュニケーション事業の理解を促す一助とした。会場内では、作品の細部が見えにくい方のためにiPadで画像を拡大したり、視覚障害のある方と一緒に会場をまわるなどのサポートを行った。「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」では、作品2点の触図を制作し、視覚障害のある方がさわって鑑賞を深められるような働きかけを行った。
[運営協力：任意団体「アート・コミュニケータ東京」]

実施日：6月10日(月)10：00～16：00
「デ・キリコ展」
実施日：11月11日(火)10：00～16：00
「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」



障害のある方のための特別鑑賞会
「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」での触図鑑賞の様子

とびラーによる建築ツアー

「とびラーによる建築ツアー」は、建築家・前川國男の設計による当館の建物の魅力を味わうプログラムである。建築家が込めた想い、歴史、建物の色・デザインといった建築を楽しむポイントを切り口に、当館の建築空間をとびラーと対話しながら散策する。ガイドを務めるとびラーそれぞれのオリジナリティが発揮された独自のプログラムを展開している。原則奇数月の第3土曜日14時から開催。

本年度は1回の参加定員を30人とし、参加方法は事前予約制とした。また、実施当日は5～6人の少人数のグループにガイドとサポートを務めるとびラーが2人付き、ワイヤレス無線機も使いながらツアーを実施した。難聴者のとびラーがガイドを務める場合はUDトークを活用した。また、第6回目には手話によるガイドグループを設け、難聴者・ろう者のとびラーが日本語対応手話により案内を行った。

実施日：5月12日(日)*、7月20日(土)、9月21日(土)、11月23日(土)、2025年1月25日(土)、3月1日(土)*
*5月の第3土曜日は公募展展覧会撤収日のため第2日曜日に実施した。
*3月の第3土曜日は公募展展覧会陳列日のため第1土曜日に実施した。
全6回開催、参加者計192人

上記の定例のツアーに加え、ライトアップされた当館を散策する「トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー」を3回行った。ほかに建築を活用したとびラー発信のプログラムとして、建築のみどころをスタンプラリー形式でめぐる「都美のいいとこスタンプラリー」を12月に開催した。また、空間を身体を使って楽しみ、通常は開放していない北側エリア(旧野外彫塑室)もめぐる「五感で楽しむ朝の都美さんぽ」を4回開催した。



とびラーによる建築ツアーの様子

学校連携

公立美術館の大きな役割のひとつに学校連携がある。学習指導要領にも学校と美術館との連携が明記されており、今後もさらなる連携が求められている。当館では、2013(平成25)年度から「Museum Start あいうえの」(詳細はpp.50-53)が始まり、小・中・高校生対象のプログラムに特化した形で拡充されている。ここでは、年間を通した学校対応や教員のための研修会の開催や受け入れ、都内教育機関を対象とした観覧料免除申請、インターンシップの受け入れ等について触れる。

2024(令和6)年度に実施したプログラムは以下の通りである。(事業実績一覧はpp.60-63参照)

年間を通じた学校対応と観覧料免除申請(都内教育機関対象)
年間を通し、教員からの来館相談に応じている。特に特別支援学校の来館については、来館動線やファシリティの確認含めて下見対応を行っている。あわせて、地域学習や校外学習、美術部の活動時間を活用した子供たちからの職場インタビューにも対応。美術館で働く学芸員という職業の社会的役割について伝えた。
対応校数5校、児童・生徒10人、教員5人

また、学校教育活動として、特別展・企画展・上野アーティストプロジェクトを都内教育機関の児童・生徒が観覧する場合は、観覧料免除申請フォームで事前に申請をすることで高校生及び引率教員の観覧料を免除。さまざまな環境にある児童・生徒の美術館での学びの機会を担保することに寄与することを目指している。なお、本年度開催された特別展「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」「デ・キリコ展」「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」及び企画展、上野アーティストプロジェクト2024については高校生の観覧料が無料であったため、免除対象は引率教員だけとなった。
観覧料免除申請校：90校、児童・生徒1,378人、引率教員162人

教員研修
学校の教員(教科不問)を対象に、美術館をよく知り、有効に活用してもらうための教員対象の研修プログラムを実施。また、区市町村の図工研究部会の研修の受け入れや教員の資質向上研修の受け入れも随時実施。アート・コミュニケーション事業の基本的な考え方や「Museum Start あいうえの」の取組み、そして具体的な学校連携プログラムの事例紹介や鑑賞ワークショップ等を行っている。

本年度は、北区教育研究会図工・美術研究部小学校分科会、葛飾区立小学校教育研究会 図工科部等の研修の受け入れ、東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰの受け入れを行った。

また、国立科学博物館で開催された「教員のための博物館の日」(7月25日～28日)にブースを出展、12月13日に実施された報告会に出席した。

専門的人材の育成
美術館を支える専門的な人材育成を行っている。将来の文化芸術活動を支える人材の育成に寄与するため、主に文化施設の事業や運営に関連する分野を専攻する大学院修士課程に在籍する学生を対象に、最長で1年間、若干名をインターン生として受け入れ、現場を通して学ぶ機会を提供している。本年度は1人を受け入れ、実践的な学びを深めてもらった。

また、依頼のあった大学の学芸員課程の授業等を受け入れ、アート・コミュニケーション事業の理念や活動を伝える機会とした。対応5校、参加学生89人。



インターンの活動の様子(あいうえのプログラムでのファシリテーション)

展覧会関連プログラム／キッズ＋U18デー

展覧会関連プログラム

当館で開催される特別展、企画展、公募展活性化事業、コレクション展をより深く理解し、より豊かに楽しんでもらえるよう、開催期間中にさまざまなプログラムを行っている。2024(令和6)年度に実施したプログラムは以下の通り。(事業実績一覧はpp.60-63 参照)

1 特別展ジュニアガイド

展覧会のテーマや内容をわかりやすく伝える特別展ジュニアガイドを制作した。本年度は「田中一村展 奄美の光魂の絵画」で7万部、「ミロ展」で1万部作成した。



「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」ジュニアガイド

2 とびラボ発展展覧会関連プログラム

とびラーの発案により、さまざまなプログラムが開催された。詳細はp.48を参照のこと。

3 展覧会関連プログラム

企画展「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展では、アーティストトークやトークイベントのほか、とびラーと展覧会をめぐるツアー「ダイアローグ・デイ with とびラー」「ダイアローグ・ナイト with とびラー」を実施した(詳細はp.58を参照)。

「上野アーティストプロジェクト2024 ノスタルジアー記憶のなかの景色」及びコレクション展「懐かしさの系譜—大正から現代まで 東京都コレクションより」では、の関連プログラムとして、アーティストトーク、学芸員レク

チャー、からだ全体で作品をあじわうダンス・プログラム「ダンス・ウェル」を実施した(詳細はp.27)。



ダイアローグ・ナイト with とびラー
「大地に耳をすます 気配と手ざわり」の様子

キッズ＋U18デー

キッズ＋U18デーとは、休室日の月曜を特別に開室する、18歳以下の方とその保護者のための特別な1日である。本年度は、「ミロ展」と、企画展「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展にて開催した。展示室では、気に入った作品をじっくり観察しながら描くことで、より丁寧な鑑賞につなげることを目的とした磁気式のお絵かきボード「とびらボード」を貸し出した。

開催日：

「ミロ展」

2025年3月31日(月)9:30～15:00

来場者：712名

「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展

8月26日(月)10:00～16:00

来場者数：152名



キッズ＋U18デー展示室風景 「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展
撮影：井手大

事業の発信・成果の発表

アート・コミュニケーション事業を体験する 2024

アート・コミュニケーション事業は、当館がリニューアル時に新しく掲げたミッションを具現化する取り組みの一つとして、2012年度に始まった事業である。美術館が芸術や文化財を研究し展示するだけでなく、人と作品、人と人をつなげ、個人と社会の新しい関係性が育まれる創造的な場であるために、多種多様な取り組みを行ってきた。

当事業を広く発信し、より多くの方に美術館のこれからの時代の役割と重ねて事業の理念を伝え、関心を持ってもらうため、「アート・コミュニケーション事業を体験する」という取り組みを2023(令和5)年度より始めた。ロビー階の第3公募展示室を会場に、開館100周年を迎える2026年度まで継続し実施していく予定である。会場には、とびラーと3年間の任期を満了したとびラーが常時滞在し、来場者と一緒にさまざまなアート・コミュニケーションが楽しめる場を作ること、体験を通して事業のエッセンスを伝えることを目的としている。

シリーズ企画の2回目にあたる2024(令和6)年度は、アート・コミュニケーション事業の中でも高齢者を対象としたプロジェクト「Creative Ageing ずっとび」に焦点をあて、「クリエイティブ・エイジング」という考え方や、当館を含めた国内外のミュージアムにおける「クリエイティブ・エイジング」につながる活動を紹介した。豊かに年を重ねながら創作活動が続けている作家として、今年96歳となる画家の上田薫とその妻でキルト作家の上田葉子の作品を展示。二人の創作の歩みを通して、生きることと表現すること、常に変化していく人間の創造力の可能性について考えた。あわせて、超高齢社会に対応したミュージアムの取り組みについて紹介する資料や、「Creative Ageing ずっとび」とその活動基盤となるアート・コミュニケーション事業に関する資料を展示した。会場ではとびラーと、3年間の任期を満了したとびラーが来場者を迎えた。12日間を通じて、6,949人が来場し、とびラーがのべ114人、任期満了したとびラーがのべ93人関わった。

開催日：7月30日(土)～8月11日(日)(8月5日は休室)

会場：ロビー階 第3公募展示室

来場者数：6,949人



「アート・コミュニケーション事業を体験する 2024」の入口
撮影：中島佑輔



展示室の様子 撮影：中島佑輔



展示室で来場者を迎える とびラーの様子

アート・コミュニケーション事業

2024(令和6)年度 実績

2024年度アート・コミュニケーション事業のプログラム参加のべ総人数：26,801人

とびらプロジェクト プログラム参加のべ数 8,345人 / アート・コミュニケーター登録者数129人								
プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数		参加者計			
			とびラー	開扉 とびラー	一般 参加者等			
基礎講座	4月13日、27日、5月11日、25日、6月18日、22日 いずれも土曜日	6回	379	0	0	379		
鑑賞実践講座	6月24日(月)、7月14日(日)、7月15日(月)、8月26日(月)、9月30日(月)、11月4日(月)、12月9日(月)、2025年1月7日(火)	8回	539	0	14	553		
アクセス実践講座	6月30日(日)、7月7日(日)、8月25日(日)、9月15日(日)、10月6日(日)、2025年1月5日(日) 特別編：8月6日(火)	7回	379	49	13	441		
建築実践講座	6月29日(土)、8月24日(土)、9月14日(土)、29日(日)、12日(土)、26日(土)、2025年2月8日(土) 特別編:10月9日(水)	8回	381	0	0	381		
鑑賞実践講座及び建築実践講座年間課題	2024年7月～2025年2月	26回	89	0	0	89		
14期とびラー 1次審査応募者	2025年2月		0	0	385	385		
14期とびラー 2次面接	2025年3月7日(金)、8日(土)、9日(日)	3日間	0	0	126	126		
とびらステーション	10月27日(日)	1回	79	0	0	79		
開扉会	2025年3月29日(土)	1回	96	0	0	96		
とびらプロジェクト・オープンレクチャー	Vol.15 ろう者・難聴者・聴者がいっしょに「～Museum Start あいうえの「みるラボ」2年間の取り組みから	1回	66	0	153	219		
とびらプロジェクト・フォーラム	交差するミュージアム関わりからクリエイティブイがうまれる	2025年1月26日(日)	1回	49	0	202	251	
藝大連携プログラム	芸術未来研究場展「とびらフェス」準備会	11月30日(土)	1回	14	0	0	14	
	芸術未来研究場展「とびらフェス」	12月1日(日)	1回	56	0	125	181	
	芸術未来研究場展「とびらフェス」とびラーによる鑑賞会	12月1日(日)	1回	6	0	8	14	
	藝大生インタビューキックオフmtg	10月27日(日)	1回	31	0	0	31	
	藝大生インタビュー	11月19日(火)、20日(水)、28日(木)、12月3日(火)、4日(水)、6日(金)、9日(月)、10日(火)	10回	32	0	0	32	
	とびら×DOOR交流講座「クロッキー」	10月14日(月)	1回	31	0	65	96	
都美連携プログラム	特別展事前勉強会(田中一村展 奄美の光 魂の絵画)	8月18日(日)	1回	62	0	0	62	
	特別展事前勉強会(ミロ展)	2025年2月2日(日)	1回	67	0	0	67	
	企画展事前勉強会 [「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展]	6月2日(日)	1回	56	0	0	56	
	企画展事前勉強会 [「つくるよろこび 生きるためのDIY」展]	2025年3月22日(土)	1回	59	37	0	96	
	上野アーティストプロジェクト2024&コレクション 展事前勉強会([「ノスタルジアー記憶のなかの景色」])	9月23日(土)	1回	34	0	0	34	
	「つくるよろこび 生きるためのDIY」展出品作家 ダンヒル&オブライエンの会	11月23日(土)	1回	38	0	1	39	
	【ずっととび】表紙の年輪(丸)ドロ잉の制作	11月17日(日)	1回	18	0	0	18	
	野外彫刻洗浄	11月5日(火)	1回	9	0	2	11	
	「障害のある方のための特別鑑賞会」準備会	6月9日、11月3日 いずれも日曜日	2回	61	128	0	189	
	「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展関連プログラム 「ダイアローグ・ナイトwithとびラー」準備会	8月2日(金)	1回	32	0	0	32	
	「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展関連プログラム 「ダイアローグ・デイwithとびラー」準備会	8月21日(水)	1回	13	0	0	13	
	日本彫刻会盲学校鑑賞事業協力	4月23日(火)、26日(金)	4回	20	0	89	109	
	東京都美術館消防訓練・防災介助セミナー	2025年2月3日(月)	1回	3	0	0	3	
	とびラボ ミーティング	4月～2025年3月	342回	2,796	0	0	2,796	
	とびラボ発プログラム(「障害のある方のための特別鑑賞会」)	6月10日、11月11日 いずれも月曜日	2回	28	0	261	289	
	さらにひろがるiPad(田中一村展)	11月11日(月)	1回	30	0	392	422	
	とびラボ発プログラム(「上野アーティストプロジェクト&コレクション展」ノスタルジアー記憶のなかの景色」)	おしゃべり鑑賞会 12月20日(金)	1回	13	0	14	27	
	とびラボ発プログラム(当館の建築及び野外彫刻をテーマとする一般来館者対象の活動)	野外彫刻を楽しむ 都美のいいとこスタンプラリー 五感で楽しむ 朝の都美さんぽ	10月5日(土)、13日(日) 12月15日(日) 9月7日(土)、12日(木)、10月19日(土)、30日(水)	2回 1回 4回	27 27 38	0 0 0	25 100 44	52 127 82
	これからゼミ	「これからゼミ」について考えてみない? これからゼミ ミーティング	9月14日(土)、22日(日) 2025年2月～3月	2回 10回	8 138	0 0	0 0	8 138
全国のアート・コミュニケーションリーグ連携	情報交換会	8月8日(木)、2025年3月25日(火)	2回	0	0	20	20	
視察対応等のアート・コミュニケーション事業連携		4月～2025年3月	50回	0	0	165	165	
開扉とびラーとの連携	「障害のある方のための特別鑑賞会」のための下見	6月5日(水)、7日(金)、9日(日)、10月19日(火)、30日(木)、11月1日(金)、3日(日)	7回	0	123	0	123	
合計				5,804	337	2,204	8,345	

※鑑賞実践講座、アクセス実践講座の一般参加者は、藝大の履修証明制度「Diversity on the Arts Project」受講生

Museum Start あいうえの プログラム参加のべ人数 2,745人

プログラム名		連携団体・学校	開催日	回数	参加者数 とびラー	生徒・ 児童	保護者・ 引率者等	参加者計	
学校向けプログラム スペシャルマンデーコース 8校2園 参加児童・生徒数 547名	【「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展】	台東区立松が谷保育園	9月9日(月)	1回	14	13	3	30	
		まちの保育園 小竹向原	9月9日(月)	1回	16	16	4	36	
		北区立滝野川小学校	9月9日(月)	1回	25	83	5	113	
		台東区立根岸小学校	9月24日(火)	1回	31	103	7	141	
		北区立田端小学校	9月24日(火)	1回	33	102	6	141	
	【田中一村展 奄美の光 魂の絵画】	東京学芸大学附属小金井小学校	10月15日(火)	1回	12	12	19	43	
		江東区立第五砂町小学校	10月15日(火)	1回	31	123	10	164	
		台東区立黒門小学校	11月25日(月)	1回	17	55	4	76	
		足立区立江北小学校	11月25日(月)	1回	15	22	9	46	
		東京都立港特別支援学校	11月25日(月)	1回	10	18	4	32	
学校向けプログラム うえのウェルカムコース 8校 参加児童・生徒数428名	【「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展】	東京都立本所高等学校美術部	8月1日(木)	1回	3	9	1	13	
		川口市立芝東中学校美術部	8月8日(木)	1回	7	24	2	33	
		上野学園高等学校	9月4日(水)	1回	11	30	2	43	
		【建築・野外彫刻探検】	台東区立東浅草小学校	10月18日(金)	1回	10	40	4	54
		【建築・野外彫刻探検】	三鷹市立南浦小学校	10月31日(木)	1回	19	126	6	151
	【ガイダンス】	【建築・野外彫刻探検】	鹿児島県立松陽高等学校	12月10日(火)	1回	0	36	3	39
		【建築・野外彫刻探検】	北区立滝野川小学校	2025年2月6日(木)	1回	29	77	7	113
		【建築・野外彫刻探検】	葛飾区立中青戸小学校	2025年2月27日(木)	1回	25	86	5	116
		学校プログラム事前打合せ			18回	0	0	31	31
		ファミリー向けプログラム	ミュージアムGO	7月6日(土)、24日(水)、 12月14日(土) 2025年2月22日(土)	4日間 8回	60	255	263	578
ダイバーシティプログラム	あいうえのmeet	①東京都美術館×東京藝術大学 ②東京都美術館×国立科学博物館 ③東京都美術館×国立西洋美術館	8月22日(木) 12月7日(土) 2025年3月27日(木)	3日間 3回	44	40	40	124	
		みるラボ：つたえ方を考える	8月17日(土)	1回	6	9	0	15	
	美術館でやさしい日本語プログラム 「絵の音を楽しもう！」		11月10日(日)	1回	25	19	22	66	
		ミュージアム・トリップ	NPO法人たいとこネット 認定NPO法人キッズドア	8月9日(金) 2025年2月1日(土)	2日間 2回	26	26	12	64
	学び合いカフェ	各プログラムのとびラー対象準備日		7月～2025年3月	24回	436	0	2	438
アンバサダープログラム			7月28日(日)、9月29日 (日)、12月15日(日) 2025年3月21日(金)	4日間 4回	4	6	4	14	
Museum Start あいうえの 2024 meeting			6月6日(木)	1回	0	0	17	17	
視察					0	0	14	14	
合計					909	1,330	506	2,745	

Creative Ageing ずっととび プログラム参加のべ人数 244人

プログラム名		開催期間・開催日	回数	参加者数		参加者計
				とびラー	一般参加者等	
認知症の方とその家族を対象にしたプログラム	オレンジカフェ×ずっととび鑑賞会	10月8日(火)	1回	14	15	29
	美術館で絵を楽しもう!「ずっととび鑑賞会」	10月9日(水)	1回	12	14	26
アクティブシニアを対象にしたプログラム	動く、撮影! イエイ! イューイ!	8月7日(水)	1回	14	14	28
研究会	「領域を超えた連携による認知症の人にやさしい環境づくり」	11月4日(月)	1回	62	0	62
とびラーとの学び合いの場	各プログラムのとびラー向け準備日	7月25日(木)、8月6日(火)、9月21日(土)、10月7日(月)	4回	73	0	73
視察				0	26	26
合計				175	69	244

障害のある方のための特別鑑賞会 プログラム参加のべ人数 1,452人							
プログラム名		開催日	回数	参加者数			参加者計
				とびラー	開扉 とびラー	一般 参加者等	
障害のある方のための特別鑑賞会	デ・キリコ展	6月10日(月)	1回	27	66	628	721
	田中一村展 奄美の光 魂の絵画	11月11日(月)	1回	36	61	634	731
合計				63	127	1,262	1,452

とびラーによる建築ツアー プログラム参加のべ人数 432人						
プログラム名	開催日	回数	参加者数			参加者計
			とびラー	一般 参加者等		
とびラーによる建築ツアー	5月12日(日)、7月20日(土)、9月21日(土)、11月23日(土)、2025年1月25日(土)、3月1日(土)	6回	124	192		316
トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー	7月5日、19日、11月29日 いずれも金曜日	3回	54	61		115
視察				0	1	1
合計				178	254	432

学校連携 プログラム参加のべ人数 3,010人						
プログラム名	開催期間・開催日	件数 回数	参加者数		参加者計	
			児童・生徒	教員等		
観覧料免除申請(都内教育機関)	印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵	1月27日(土)～4月7日(日)	3件	32	5	37
	デ・キリコ展	4月27日(土)～8月29日(木)	52件	743	95	838
	大地に耳をすます 気配と手ざわり	7月20日(土)～10月9日(水)	7件	150	16	166
	田中一村展 奄美の光 魂の絵画	9月19日(木)～12月1日(日)	14件	244	20	264
	上野アーティストプロジェクト2024	11月16日(土)～2025年1月8日(水)	6件	69	10	79
	ミロ展	2025年3月1日(土)～7月6日(日)	8件	140	16	156
学校来館(都外教育機関)	デ・キリコ展	4月27日(土)～8月29日(木)	32件	576	29	605
	大地に耳をすます 気配と手ざわり	7月20日(土)～10月9日(水)	9件	141	15	156
	田中一村展 奄美の光 魂の絵画	9月19日(木)～12月1日(日)	15件	298	14	312
	上野アーティストプロジェクト2024	11月16日(土)～2025年1月8日(水)	6件	101	13	114
	ミロ展	2025年3月1日(土)～7月6日(日)	4件	63	9	72
教員研修	ティーチャーズデイ	6月26日(水)	1回	0	9	9
教員研修受入	東京都立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ受入 (台東区立浅草中学校)	8月3日(土)、10日(土)	2日間	0	2	2
専門的人材の育成およびネットワーク	足立区図工研究部会	6月26日(水)※打合せ、 8月27日(水)	2回	0	33	33
	北区教育研究会図工・美術研究部 小学校分科会	7月31日(水)	1回	0	19	19
	葛飾区立小学校教育研究会 図工科部	8月1日(木)	1回	0	16	16
	千葉県船橋市立中学美術教員研究部	10月23日(水)	1回	0	10	10
	女子美術大学	5月23日(木)	2回	40	4	44
	東京都立大学	10月19日(土)	1回	19	3	22
	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科	10月21日(月)	1回	9	0	9
	神奈川大学建築学部建築学科	11月30日(土)	1回	19	2	21
	東京学芸大学大学院	2025年1月15日(水)	1回	2	0	2
	上野の森美術館学芸課	8月20日(火)	1回	5	4	9
職業インタビュー	東京都立小台橋高等学校	8月21日(水)	1回	1	0	1
	長野県立松本県ヶ丘高等学校	9月26日(オンライン)、12月12日(来館) いずれも木曜日	2回	9	0	9
校外学習下見	東京都立墨東特別支援学校	4月30日(火)	1回	0	1	1
	東京都立練馬特別支援学校	5月2日(木)、11日(土)	2回	0	2	2
	東京都立鹿本学園中学部	8月2日(金)、15日(木)	2回	0	2	2
合計				2,661	349	3,010

展覧会関連プログラム プログラム参加のべ人数 2,308人						
プログラム名		開催期間・開催日	回数 日数	参加者数		参加者計
				とびラー	一般 参加者等	
とびらボード	【アート・コミュニケーション事業を体験する 2024】	7月30日(火)～8月11日(日)	12日間	0	57	57
	【キッズ+U18デー(大地に耳をすます 気配と手ざわり)】	8月26日(月)	1日間	0	40	40
	【ミロ展】	2024年3月1日(土)、2日(日)、8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日)、20日(木)～23日(日)、25日(火)～31日(月)	16日間	0	957	957
【大地に耳をすます 気配と手ざわり】	ダイアログ・ナイト withとびラー	8月30日、9月6日、13日 いずれも金曜日	3回	40	53	93
	ダイアログ・デイwithとびラー	9月4日(水)、11日(水)	2回	28	41	69
	アーティストトーク	7月20日(土)、8月4日(日)	3回	0	124	124
	トークイベント	8月24日(土)、31日(土)、9月22日(日)、26日(木)	4回	6	125	131
	【田中一村展 奄美の光 魂の絵画】	講演会	9月21日(土)、10月20日(水)	2回	0	380
【ミロ展】	講演会	2025年3月1日(土)	1回	0	148	148
【上野アーティストプロジェクト2024&コレクション展 ノスタルジアー記憶のなかの景色】	アーティストトーク	11月23日(土)、12月1日(日)、7日(土)	3回	0	205	205
	ダンス・ウェル	12月8日、2025年1月4日 いずれも土曜日	2回	0	49	49
	学芸員レクチャー	12月14日(土)	1回	0	55	55
合計				74	2,234	2,308

キッズデー+U18 プログラム参加のべ人数 864人						
プログラム名	開催期間・開催日	回数 日数	参加者数			参加者計
			とびラー	開扉 とびラー	一般 参加者等	
キッズ+U18 デー	大地に耳をすます 気配と手ざわり	8月26日(月)	1回	0	152	152
キッズデー	ミロ展	2025年3月31日(月)	1回	0	712	712
合計				0	864	864

事業の発信等 プログラム参加のべ人数 7,401人							
プログラム名	開催期間・開催日	回数 日数	参加者数			参加者計	
			とびラー	開扉 とびラー	一般 参加者等		
アート・コミュニケーション事業を体験する 2024	7月30日(火)～8月11日(日)	12日間	114	106	6,662	6,882	
	開扉とびラー向け説明会	4月14日(日)	1回	0	31	0	31
	事前勉強会	6月22日(土)	1回	60	0	0	60
	準備会	7月29日(月)	1回	54	55	0	109
	ギャラリートーク	7月30日(日)	1回	0	0	54	54
	アーティストトーク	8月3日(土)	1回	0	0	65	65
	筆談deアート鑑賞	8月3日(土)、4日(日)	4回	4	8	20	32
	鑑賞プログラム	8月10日(土)、11日(日)	4回	24	29	0	53
	ワークショップ 「布と糸でウミウシをつくらう！」	8月10日(土)	1回	0	0	24	24
	アート・コミュニケーション事業を体験する 2025	説明会	2025年3月22日(土)	1回	59	32	0
合計				315	261	6,825	7,401

令和6年度 東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum
Annual Report 2024

発行日／令和7年10月

執筆・編集／東京都美術館

印刷／株式会社ルナテック

発行／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
〒110-0007

東京都台東区上野公園8-36

TEL 03-3823-6921(代表)

FAX 03-3823-6920

© Tokyo Metropolitan Art Museum